

## はじめに



2020年代を迎え、少子高齢化と人口減少、とりわけ本市をはじめとする地方において生産年齢人口の減少が深刻化しているという課題の克服と、様々な災害に対して大切な命と暮らしを守る備えにさらなる力を注いでいた矢先の令和2年、世界を襲った感染症による深刻な状況によって、これまで当たり前にあった私たちの生活が激変しました。それから2年の年月を経て、「次の時代」に向け、新たな局面を迎えつつ、動き出そうとしています。また、大都市集中から地方回帰の思考も芽生え、地方創生は、支え合う地域社会の再構築などの段階に入ってきたと考えられます。持続可能な開発目標（SDGs）や脱炭素社会、2025年の大阪・関西万博など、いにしえからの暮らしの知恵と先端技術、自然との共生などにおいて、地方が果たすべき役割は大きいと考えます。

本市は、「天理市第6次総合計画」において、将来像として、多様な連携で共に支え合うまちを掲げてきました。本市の持つあらゆる資源の豊かさを大切にしながら、地域の絆を育み、誰もが生き生きと活躍し、安心して豊かに暮らし続けられる、共生都市を目指し始動しました。

そうしたなか、「天理市第6次総合計画」のまちの将来像をもとに、「天理市都市計画マスタープラン（第3次）」を策定いたしました。策定にあたっては、地域のプロフェッショナルである皆さまと共創を念頭に、都市計画の概念にとどまらず、既存の物事に新たな可能性を見だし、まちの賑わい、快適性や生活の満足度、地域のつながりなど、様々な分野で連携・協働していくまちづくりの視点も盛り込みました。

共に支え合い、絆を育み、一人ひとりの豊かな未来につながる、全ての世代が輝ける天理をオール天理で切り拓いてまいりますので、皆さまの一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

本都市計画マスタープランの策定にあたりまして、まちづくり市民会議の皆さまをはじめ、関わっていただいた全ての方々に厚くお礼を申し上げ、挨拶とさせていただきます。

令和4年11月

天理市長 並河 健